



2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月2日

上場会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 4772 URL <http://www.streammedia.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 東佑
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部門長 (氏名) 山田 政彦 TEL 03-6809-6118
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第2四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	4,864	57.2	276	—	283	—	244	—
2022年12月期第2四半期	3,094	6.1	△147	—	△134	—	△0	—

(注) 包括利益 2023年12月期第2四半期 740百万円 (—%) 2022年12月期第2四半期 △1,801百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第2四半期	2.11	—
2022年12月期第2四半期	△0.00	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第2四半期	13,043	7,461	50.6
2022年12月期	10,067	6,693	60.1

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 6,598百万円 2022年12月期 6,053百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	0.00	—	—	—
2023年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,273	31.0	84	—	88	—	70	—	0.61

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期2Q	115,903,831株	2022年12月期	115,903,831株
② 期末自己株式数	2023年12月期2Q	9,809株	2022年12月期	9,675株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期2Q	115,894,105株	2022年12月期2Q	115,894,231株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕4ページ 1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループに関連する市場につきましては、エンターテインメント業界では、個人判断によるマスク着用を基本とする等、新型コロナウイルス感染症対策のための制限にも生活レベルで変化がありました。コンサート市場も2019年規模まで回復すると予想されていますが、コンサート制作に係る費用高騰は続き、コロナ禍前の状況まで回復には至っていません。メディア業界では多チャンネルサービスの加入世帯減少、韓国コンテンツの人気沸騰による著作権獲得競争の激化が続いているだけでなく、中華圏作品の著作権ビジネス競争も増しておりライツビジネス業界におきましても市場環境は益々厳しい状況となっています。

このような厳しい経営環境におきましても積極的に事業を展開した結果、前期に続き当社グループの当第2四半期連結累計期間におきましても順調に推移しています。

エンターテインメント事業では、東方神起が2月より開始したコンサートツアーは全国のアリーナ会場のみならず、京セラドーム大阪と東京ドームにて追加公演も行い計20公演を実施しました。キャッシュカウであるコンサート事業は、当第2四半期連結累計期間において、計56公演のオフランコンサートを実施し約75万人を動員しました。

ライツ&メディア事業では、当第2四半期連結累計期間において、KPIに掲げているK-POPプレミアムコンテンツ放送は、Red Velvet約3年半振りとなるコンサート「Red Velvet 4th Concert : R to V」のTV独占生放送を含め、計6作品を放送しました。第3四半期では既に3作品のK-POPプレミアムコンテンツ放送を予定し、ドラマファン層のみならず音楽ファン層へも新規加入促進を図ってまいります。また、KNTVの配信サービスKNTV+を、サービスの質は維持しつつも運用に係るコストを大幅に見直し第3四半期にリニューアルを実施、利便性向上による新規加入並びに解約防止に引き続き努めてまいります。ライツ事業では、韓国コンテンツの人気沸騰に伴い保有するアーカイブ作品の販売が好調であり、業績に寄与しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,864百万円（前年同期比57.2%増）、営業利益は276百万円（前年同期は147百万円の営業損失）、経常利益は283百万円（前年同期は134百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は244百万円（前年同期は0百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、株式会社SMEJを吸収合併したことに伴い2020年7月31日付で株式会社東京証券取引所より指定されました「合併等による実質的存続性の喪失に係る猶予期間入り銘柄」は、新規上場審査基準に適合しているかの審査を経て、6月15日付で猶予期間入り銘柄から解除されることになりました。今後も引き続き、全社一丸となり企業価値向上に努めてまいります。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

(エンターテインメント事業)

コンサート事業では、大型コンサートの実施を含め27公演実施し43万人を動員しました。東方神起は約3年半振りとなるコンサートツアーを2月より開始し、6月17日、18日に京セラドーム大阪、同月24日、25日に東京ドーム公演を実施し、ツアー合計で約30万人を動員しました。また、東方神起は今回のツアーを含めたべ89回のドーム公演を行い、海外アーティスト最多ドーム公演回数を記録しました。4月15日、16日にはEX0が約5年半振りとなるファンクラブイベントをベルーナドームで開催し約5万人を動員した他、NCTのユニットであるWayVによる初の日本単独イベントを5月6日、7日に開催し約2万人を動員しました。第3四半期ではaespaが8月5日、6日に海外アーティストデビュー最速となる初の東京ドーム公演、NCTが9月9日、10日に長居スタジアム、同月16日、17日に味の素スタジアム公演を控える等、大規模コンサートを予定しています。一方、人件費等のコンサート制作費高騰に加え、一部公演におきましては会場仕様のためのステージ制作費が通常に比べ大幅に増加する等、コロナ禍前の収益率と比較し未だ低調となっています。当社はチケット販売金額からステージ制作費やコンサート運営費等を差し引いた金額を売上として認識しています。費用の高騰は先行き不透明な状況が続きますが、当社としては状況を鑑みつつ適切に対処してまいります。

MD事業では、NCT127が全国コンビニ等で販売される「一番くじ」とコラボレーションを実施した他、限定グッズをオンラインストアで販売する等、コンサートグッズのみならずそれ以外の事業展開も精力的に行ってまいりました。「一番くじ」等IPを活用したライセンスビジネスにおきましては、昨今の制作費高騰や為替リスクを回避することができ安定的に収益が見込めることから、今後さらなる強化を図ってまいります。

音楽事業では2タイトルを発売しました。5月26日にYESUNG (SUPER JUNIOR) が日本ミニアルバム「君という桜の花びらが僕の心に舞い降りた。」をリリースし、6月28日には東方神起がNewシングル「Lime&Lemon」をリリースし、オリコン週間ランキング2位を獲得しました。

音楽以外の活動におきましては、NCT127に所属する日本人メンバー YUTAが4月14日より放送開始したテレビ東京系ドラマ25「クールDJ男子」にて主演を務めました。本ドラマのエンディングテーマにはNCT127「Sunny Road」が採用されています。7月27日からは「NCT Tokyo(仮)」のメンバーを決定するデビューサバイバル番組「NCT

Universe:LASTART」が日本テレビやHuluでの放送および配信を予定しています。本番組は海外番組販売も行い、アーティストラインナップの増加に伴う収益拡大を図ってまいります。

この結果、売上高は3,405百万円（前年同期比166.2%増）、セグメント利益は363百万円（前年同期は12百万円のセグメント損失）となりました。

（ライツ&メディア事業）

ライツ事業では著作権獲得競争の激化が続き、昨年同期比における著作権獲得数は減少傾向となりました。加えて為替による価格高騰も生じており、引き続き今後のコンテンツ獲得に影響が出ることが予想されます。著作権獲得状況におきましては、中国ドラマは韓国人気俳優が出演する作品を獲得することでラインナップを増やし販売を強化する等、激化する市場においてあらゆる営業手法を考案してまいりました。一方、韓流コンテンツの人気高騰は続いており、著作権販売状況は好調です。当社が権利を保有するアーカイブ作品に字幕を自社制作し、地上波、BSへ販売する等保有著作権の有効活用を行った他、国内VOD事業者への配信権販売が好調であり、業績に寄与しています。

メディア事業においては、日本で高い人気を誇る俳優チャン・グンソクが約5年振りに主演を務めたドラマ「餌<ミッキ>(原題)」を6月に日本初放送を行った他、BTS等K-POP番組の特集を組むなど保有するアーカイブ作品を有効的に活用することで新規加入促進を図りました。結果、6月単月においては通常月に比べ加入及び解約件数は共に好調に推移しました。KPIに掲げているK-POPプレミアムコンテンツは第2四半期において計4作品を放送いたしました。4月にはRed Velvet約3年半振りとなるコンサート「Red Velvet 4th Concert : R to V」を韓国からTV独占生放送した他、KEY(SHINee)「KEY : 'GROKS IN THE KEYLAND」をTV初放送する等、グループシナジーを活用しエスエム・エンタテインメント所属アーティストのコンテンツを放送いたしました。大規模コンサート等の大型番組生中継と比較すると効果は限定的でした。近年OTTサービスにて日本独占配信作品が増加し、放送サービス関連企業にとっては継続し厳しい状況が続きますが、第3四半期におきましても引き続き良質な作品の調達を目指す他、KNTV+リニューアルによる解約防止に注力してまいります。

この結果、売上高は1,458百万円（前年同期比19.4%減）、セグメント利益は271百万円（前年同期比85.5%増）となりました。なお、前年同期におきましては株式会社Beyond Live Corporationが子会社であったことから、当第2四半期連結累計期間における売上高は減少しています。

（その他事業）

その他事業では、売上高は0百万円（前年同期比92.7%減）、セグメント損失は18百万円（前年同期は19百万円のセグメント損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期連結会計期間末の総資産は13,043百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,975百万円増加いたしました。流動資産は10,325百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,201百万円増加いたしました。その主な要因は、売掛金が1,340百万円増加、コンテンツ事業権が166百万円増加及びその他が421百万円増加したことによるものであります。また、固定資産は2,717百万円となり、前連結会計年度末に比べ774百万円増加いたしました。その主な要因は、投資有価証券が770百万円増加したことによるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末の負債は5,581百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,207百万円増加いたしました。流動負債は4,774百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,935百万円増加いたしました。その主な要因は、買掛金が1,686百万円増加したことによるものであります。また、固定負債は807百万円となり、前連結会計年度末に比べ271百万円増加いたしました。その主な要因は、繰延税金負債が266百万円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産は7,461百万円となり、前連結会計年度末に比べ768百万円増加いたしました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金が299百万円増加及び非支配株主持分が195百万円増加、親会社株主に帰属する四半期純利益244百万円により利益剰余金が増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ229百万円増加し、3,644百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、236百万円（前年同期は250百万円の使用）となりました。

収入の主な内訳は、仕入債務の増加額1,686百万円等によるものであり、支出の主な内訳は、売上債権の増加額1,340百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、8百万円（前年同期は317百万円の使用）となりました。

支出の主な内訳は、有形固定資産取得による支出3百万円、無形固定資産の取得による支出4百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、0百万円（前年同期は16百万円の使用）となりました。

支出の主な内訳は、自己株式の取得による支出0百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年12月期の連結業績予想につきましては、2023年2月14日の「2022年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。今後、状況の進展や事業動向等を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,415,764	3,644,769
売掛金	2,609,273	3,949,827
商品	20,364	38,357
番組勘定	546,027	491,481
コンテンツ事業権	1,077,648	1,244,093
前渡金	109,834	191,934
その他	347,716	769,120
貸倒引当金	△2,371	△3,839
流動資産合計	8,124,257	10,325,744
固定資産		
有形固定資産	20,637	25,660
無形固定資産	22,259	18,757
投資その他の資産		
投資有価証券	1,854,497	2,624,945
その他	149,045	151,270
貸倒引当金	△102,866	△102,866
投資その他の資産合計	1,900,676	2,673,349
固定資産合計	1,943,574	2,717,767
資産合計	10,067,832	13,043,511
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,252,070	3,938,913
契約負債	258,166	153,220
賞与引当金	61,598	—
その他	267,210	682,680
流動負債合計	2,839,045	4,774,814
固定負債		
繰延税金負債	523,408	789,906
その他	12,220	17,244
固定負債合計	535,628	807,151
負債合計	3,374,674	5,581,965
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,041,970	6,041,970
資本剰余金	3,438,996	3,438,996
利益剰余金	△4,161,943	△3,917,011
自己株式	△33,087	△33,115
株主資本合計	5,285,935	5,530,839
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	767,614	1,067,612
その他の包括利益累計額合計	767,614	1,067,612
新株予約権	310,161	338,276
非支配株主持分	329,447	524,817
純資産合計	6,693,157	7,461,546
負債純資産合計	10,067,832	13,043,511

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高	3,094,587	4,864,391
売上原価	2,383,995	3,741,274
売上総利益	710,592	1,123,116
販売費及び一般管理費	858,139	846,826
営業利益又は営業損失(△)	△147,547	276,289
営業外収益		
受取利息	980	913
為替差益	9,858	5,177
業務受託料	1,082	852
受取家賃	1,760	—
その他	178	88
営業外収益合計	13,859	7,031
営業外費用		
支払利息	62	6
その他	335	6
営業外費用合計	397	13
経常利益又は経常損失(△)	△134,085	283,308
特別利益		
固定資産売却益	1,225	—
新株予約権戻入益	9,040	—
関係会社株式売却益	134,467	—
特別利益合計	144,733	—
税金等調整前四半期純利益	10,647	283,308
法人税、住民税及び事業税	9,184	46,957
法人税等調整額	562	—
法人税等合計	9,747	46,957
四半期純利益	900	236,350
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1,411	△8,581
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△511	244,932

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	900	236,350
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,802,156	503,949
その他の包括利益合計	△1,802,156	503,949
四半期包括利益	△1,801,256	740,300
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,073,324	544,930
非支配株主に係る四半期包括利益	△727,932	195,369

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,647	283,308
減価償却費	36,148	11,371
株式報酬費用	—	28,115
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,491	1,468
賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	△61,598
受取利息及び受取配当金	△980	△913
支払利息	62	6
固定資産売却損益 (△は益)	△1,225	—
新株予約権戻入益	△9,040	—
関係会社株式売却損益 (△は益)	△134,467	—
為替差損益 (△は益)	△10,153	△3,161
売上債権の増減額 (△は増加)	△628,357	△1,340,553
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△127,788	△129,893
前渡金の増減額 (△は増加)	101,782	△82,099
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	118,691	△421,604
仕入債務の増減額 (△は減少)	606,736	1,686,843
前受金の増減額 (△は減少)	—	23,580
契約負債の増減額 (△は減少)	45,170	△104,946
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△294,750	343,566
その他	30,973	5,966
小計	△255,061	239,456
利息及び配当金の受取額	1,184	1,114
利息の支払額	△62	△6
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	3,424	△4,538
営業活動によるキャッシュ・フロー	△250,514	236,026
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,346	△3,312
無形固定資産の取得による支出	△86,926	△4,183
有形固定資産の売却による収入	2,000	—
貸付金の回収による収入	3,000	—
敷金及び保証金の差入による支出	△71	△214
敷金及び保証金の回収による収入	800	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△221,583	—
その他	△933	△1,200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△317,061	△8,909
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△2,920	—
自己新株予約権の取得による支出	△13,423	△27
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,343	△27
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,959	1,915
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△575,960	229,004
現金及び現金同等物の期首残高	3,760,656	3,415,764
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,184,696	3,644,769

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンターテイン メント事業	ライセンス&メディ ア事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,279,238	1,810,300	3,089,538	5,048	3,094,587
外部顧客に対する売上高	1,279,238	1,810,300	3,089,538	5,048	3,094,587
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,000	2,212	4,212	—	4,212
計	1,281,238	1,812,513	3,093,751	5,048	3,098,800
セグメント利益又は損失(△)	△12,236	146,538	134,302	△19,011	115,290

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	134,302
「その他」の区分の利益	△19,011
全社費用(注)	△262,838
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△147,547

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンターテイン メント事業	ライツ&メディ ア事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	3,405,785	1,458,239	4,864,024	366	4,864,391
外部顧客に対する売上高	3,405,785	1,458,239	4,864,024	366	4,864,391
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,405,785	1,458,239	4,864,024	366	4,864,391
セグメント利益又は損失(△)	363,009	271,782	634,792	△18,847	615,944

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	634,792
「その他」の区分の利益	△18,847
全社費用(注)	△339,655
四半期連結損益計算書の営業利益	276,289

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。